

# ペルーの働く子どもたちと 彼らに対する立場の違い

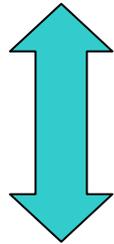
—条約等の比較考察を通して—

Hitomi Kudo

# 児童労働の定義

- 子どもの労働にはピンからキリまでである。

子どもの発達を妨げない、ためになる労働  
Ex. 家や田畑での手伝い、小遣稼ぎ



児童労働の多くが両者の間のグレーゾーンにある。

子どもの心身の発達に有害な労働  
Ex. 債務奴隷（親などの借金の代わりに働かされる）

(ユニセフ、1996)

# ペルーにおける児童労働の社会的背景

- 貧困率の高い農村部や、農村から都市部へ移動した人々の居住区では十分な収入が無く、家計を助けたり必需品を買う目的で子どもが働いている。
- 先住民が人口の約半分を占め、地理的・歴史的にも社会の分断が大きい。
- 学校の大半は国立だが、裕福な家の子どもは小学校から私立学校へ通う。

## 教育に関する基礎データ

- 就学前教育1年、初等教育6年、中等教育5年が義務教育だが、全ての子どもが就学しているわけではない。

初等教育	全体	男子	女子
粗就学率(%)	116	116	117
純就学率(%)	96	96	97

中等教育	全体	男子	女子
粗就学率(%)	94	93	96
純就学率(%)	72	72	72

(UNESCO、2006)

## ペルーにおける児童労働

- ・ペルーで働く6歳から17歳の青少年 217万人
- ・…同年齢中の3割。
- ・仕事の種類は年齢により異なる。
  - 6～13歳 家族親族の経済活動の手伝い(商業、農業、牧畜など)
  - 14～17歳 売店や市場の店員、サービス業、農耕の日雇い労働、家庭内での労働など。
- ・都市部では10人に2人、農村部では10人に8人の子どもが働く。

(Instituto Nacional de Estadística e Informática: INEI(国立情報統計庁), 2006)

# 児童労働に関する条約と働く子どもたちによる宣言

- (1) 国連子どもの権利条約
- (2) ILO(国際労働機関)条約138号、182号
- (3) クンダプール宣言

- 国連子どもの権利条約(1989年, ペルーの批准:1990年9月4日)に見られる子ども観

## ①自ら考え、その意見を表明できる主体としての子ども観

第3条:子どもに関する措置をとる際、子どもの最善の利益を考慮すること

第27条:子どもの身体的、精神的、道徳的及び社会的な発達のための相当な生活水準への権利

⇒子どもの働く権利に援用される

## ②保護されるべき客体としての子ども観

第32条(子どもの就労からの保護)

※ただしこの条約では就業最低年齢は定めていない。

(⇔ILO条約)

- ILO条約138号(1973年採択、ペルーの批准:2002年11月13日)  
就業最低年齢

最低年齢	輕易な労働	危険な労働
15歳 ・義務教育終了年齢を下回らない(原則) ・途上国は14歳とすることができる	13歳 ・途上国は12歳とすることができる	18歳 ・健康・安全・道徳が保護され、適切な職業訓練を受ける場合は16歳

- ILO条約182号(1999年採択、ペルーの批准:2002年1月10日)  
最悪の形態の児童労働(人身売買や紛争への強制徴収を含む強制労働、債務奴隷、売春、麻薬取引など)をまず撲滅し、それから他の児童労働も撲滅していくという戦略的な条約。

- ・ **クンダプール宣言（1996年）**
- ・ インドのクンダプールでラテンアメリカ、アフリカ、アジアの働く子どもたちの団体が集まった会議で出された宣言。
- ・ ペルーの働く子どもたちの団体ナソップ（MNNATSOP=Movimiento Nacional de Niños, Niñas y Adplescentes Trabajadores Organizados del Perú: ペルーの働く子ども・若者の全国運動）も参加。

### ナソップ

- ・ 1996年結成。母体となる団体は1976年に結成。
- ・ 働く子どもを含めたすべての子どもの権利が尊重されることを活動目的とする。

- クンダプール宣言で子どもたちが求めていること

子どもたちの問題、主導権、提案、組織過程を認めること

子どもが作った製品のボイコットに反対

健康管理

子どもの労働への敬意、安全の配慮

子どもに関する決定への参加

貧困との闘い

子どもたちの状況に適した教育

子どもたちの状況に適した職業訓練

労働の搾取に反対、教育と余暇の時間の持てる労働に賛成  
hk

地方での活動

## 働きながら学ぶ理由

- 教育は将来、より良い仕事を得るための手段。  
(Oveido, 1998)
- 公立学校では授業料は無料だが、教材やPTA会費、  
入学金がかかるほか、学用品は個人負担のため、  
学校に通うために働く子どもがいる。(川窪、2000)
- 家族の役に立つ、あるいは自分の必需品を買うこと  
ができる。  
→自信、自立心を得る。(荒木、1997)
- 多くの学校が二部制(午前・午後)や三部制(午前・  
午後・夜間)であるため、学校に通っていない時間に  
働くことができる。

# 児童労働に対する価値観の相違

## 児童労働撲滅派

- ・国際機関等による「普遍的な子ども時代」の想定
- ・子どもを保護するため、一定年齢以下は家庭などでの無償労働が望ましい。
- ・児童労働は「貧困の再生産」(Ordóñez, 1995 in Post 2002)

## 児童労働擁護派

- ・子ども時代は普遍的なものではない(前平、1997)
- ・有償労働によって子どもの立場を強化する(Nieuwenhuys, 1998)
- ・子どもを労働から排除することは、彼らを大人に従属させることにつながる。(Salazar, 1991)



## 児童労働に対する立場の相違

	児童労働撲滅派 (ex. ILO)	中間的立場 (ex. 国連、UNICEF (ユニセフ、1996))	児童労働擁護派 (ex. ナソップ)
売春、 人身売買、 麻薬取引 等	最悪の形態の 児童労働	有害、 搾取的な労働	労働ではなく 犯罪
教育	子どもを労働 から遠ざける 手段	子どもの生活に合 わせた教育は子ど もを労働から引き 離す	労働を通して学 べる(学校教育は 否定せず)
最終目標	社会の進歩、 経済成長	子どもの生存と発 達、その権利を守 ること nk	子どもを社会を構 成する一員として 認めさせること

## <参考文献>

荒木重雄「児童労働を生み出す社会と文化」初岡昌一郎編『児童労働；廃絶にとりくむ国際社会』日本評論社、1997。

小倉英敬「1990年代ペルーにおける労働法制改革とその社会的影響」 遅野井茂雄・村上勇介編『現代ペルーの社会変動』国立民族学博物館 地域研究企画交流センター、2005、pp.227-246。

川窪百合子「ペルーの働く子どもたち —社会変化の担い手としての子どもの位置付けとその葛藤— 前編」『PRAÇA』第12号、2000、pp.37-45。

福井千鶴、「ペルーにおける都市化と貧困問題 —リマ首都圏における現状とその改善策の一考察—」『地域政策研究』第2巻第1・2合併号、高崎経済大学地域政策学会、1999、pp.57-73。

前平泰志「『人権』と異文化—『子どもの権利条約』もうひとつの読み方」中村拓三監修／(財)解放教育研究所編『解放教育のアイデンティティ』明治図書、1997。

ユニセフ(国連児童基金)『1997年世界子供白書』ユニセフ駐日代表事務所、1996。

INEI, *Visión del Trabajo Infantil y Adolescente en el Perú*(ペルーにおける青少年の労働の状況), 2001., 2002

Nieuwenhuys, Olga. "Global childhood and the politics of contempt." *Alternatives*. Vol. 23, No.3, 1998.

Oviedo, José. P. "Hacia una cultura NATs. (働く青少年の文化について)" in Ifejant. *Niñ@s trabajadores; Protagonismo y actoría social.* (働く青少年；主役論と社会運動) Lima: Ifejant, 1998.

Ordóñez, Dwight and Mejía, María del Pilar. *El trabajo Infantil Callejero en Lima.* (ジマの路上での児童労働) Lima: CEDRO, 1995. in Post, 2002.

Post, David. *Children's work, schooling, and welfare in Latin America.* Boulder, Colorado: Westview Press, 2002.

Post, David. , Sakurai, Riho. "Recognizing a problem: The Impact of Global Politics on Child Labor Advocacy in Mexico." *International Journal of Educational Policy, Research and Practice*. Vol.2, No.3. 2001. pp.267-286.

Schech, S. and Haggis, J. *Culture and Development: A Critical Introduction.* Oxford:Blackwell Publishers Ltd. 2000.

Sakurai, Riho *Child labour and education. Background paper for the Education for all Grobal Monitoring Report 2007 Strong foundations: early childhood care and education.* Unesco, 2006.

Salazar, Maria C. "Young Workers in Latin America: Protection or Self-Determination?" *Child Welfare*. Vol.70, No.2, 1991

UNESCO Institute for Statistics <http://stats.uis.unesco.org/>